

林業安全コラム

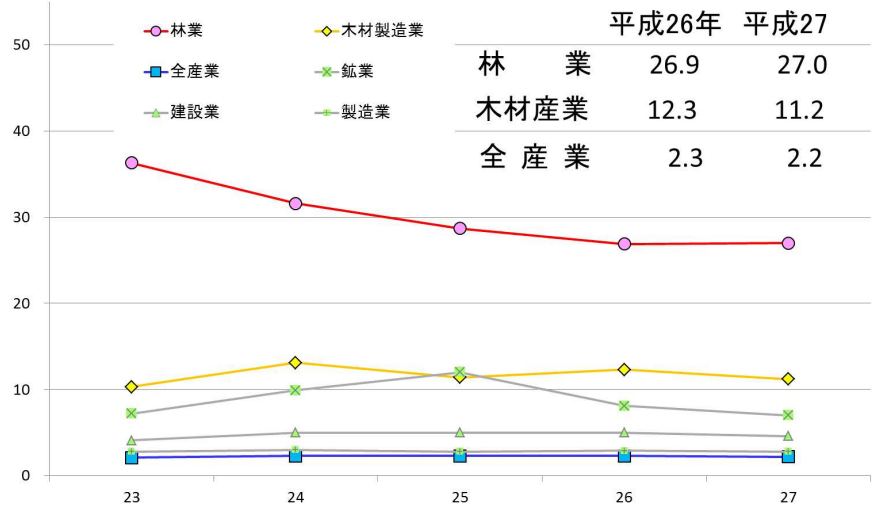
ヒヤリハットを共有し 危険をなくそう安全職場 ヨシ!

(2016年度 安全衛生スローガン<月間重点活動>)

○ 産業別死傷年千人率（休業4日以上）

林業は0.1ポイント増加!

産業別死傷年千人率（休業4日以上）とは、労働者1,000人当たり1年間に発生する死傷者数を示すもので、1年間の平均労働者数に占める1年間の死傷者数に1,000を乗じた値で表したものです。全産業に比べ林業の年千人率は約12倍とかなり高い状況となっています。全産業は昨年比去年0.1ポイント減少しているのに対し、林業は0.1ポイント増加しており、労働災害防止に向けた取組の強化が求められます。日頃から安全作業を意識し、災害の未然防止に努めましょう。



資料：産業別死傷年千人率（厚生労働省） 死傷年千人率とは、労働者1,000人あたり1年間に発生する死傷者数（休業4日以上）。注：算定基礎は、「労働者死傷病報告書」及び「総務省労働力調査」。

※ 平成24年より、労働者死傷病報告に基づく数値で算出しているため、平成23年以前の数値とずれが生じています。

○ 林業労働災害の発生事例（類似災害防止のために!）

熱中症

災害発生当日、被災者は、班長および同僚の3人で詰所から植林杉の下草の刈払い作業に出発した。

携帯したのは、自宅から持ってきたペットボトル1本（凍らせた水0.5リットルのもの）と水筒（1.2リットル）であったが、現場に到着後、これは車に残して作業場所には携帯しなかった（班長が0.5リットルの凍らせた麦茶を用意した）。刈払い作業は、それぞれの担当箇所に分れて刈払機を用いて始められ、午前10時から約20分の休憩をとったが、この時麦茶を入れて凍らせたペットボトルが班長から1本ずつ渡され、被災者は口をつけたが凍っていたため約1/3を飲み残した。11時30分頃、班長と同僚は昼食のため休憩地点に戻ったが、被災者が戻らないので探したところ、刈払機が稼働したまま傍らで意識がもうろうとした状態で倒れている被災者を発見した。直ちに救急車を呼び病院に収容した（体温は42℃もあった）が、約10時間後に熱中症のため死亡した。



被災者の服装は長袖の綿のTシャツ、綿の作業ズボン、保護帽、軍手を着用していた。この日は、無風、快晴で午前10時にはすでに29℃近くまで気温が上昇し、相対湿度73%の状態であった。

平成28年から、8月11日が「山の日」として国民の祝日となります。山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日です。各地で制定記念イベントが開催されていますので、参加してみたいかでしょうか。

林業労働対策室労働安全衛生班
TEL:03-3502-1629（直通）